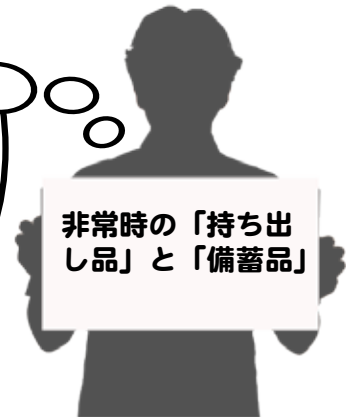


防災知識 その1

いざという時のために防災の知識と心構えを身につけましょう。



災害発生時に持ち出す「非常持出品」と、救援物資が届くまでの数日間をしのぐ「備蓄品」の備えを各家庭でお願いします。どちらも年に一度はチェックして、新しいものと交換しましょう。

非常持出品

とっさの場合に持ち出せるようにリュックに詰めておきましょう。
貴重品（現金、通帳、印鑑、保険証、免許証、母子健康手帳など）
ラジオ・照明器具（FM付ラジオ、懐中電灯、予備電池、ローソク、ライター、マッチなど）
衣類（下着、トレーナー、ジャンパー、軍手、雨具など）

非常用食品（缶詰、カンパン、ビスケット、チョコレート、水など）
道具類（缶切り、栓抜き、ナイフ、割り箸、ロープ、ビニールシートなど）
救急・衛生用品（消毒液、傷薬、目薬、胃腸薬、鎮痛解熱剤、ばんそうこう、包帯、生理用品、ウェットティッシュなど）

備蓄品

大規模災害時には、救援物資が届くまで3日かかると言われていますので、少なくとも3日間は自活できる用意をしましょう。
燃料（卓上コンロ、スベアガス、固形燃料など）
洗面具（歯ブラシ、タオル、石鹸など）
水（飲料水は1人あたり1日約3リットルが目安です）
暖房（暖房器具、使い捨てカイロなど）
食料品（米、アルファ米、レトルト食品、カップ麺、菓子類など保存期限の長いもの）



町長室からこんにちは

新得町長 浜田正利

最近のことから五点報告します。

一点目は、2月26日に東京で開催されました第27回「東京ふるさと会」定期総会に出席させていただきました。会員、会員の友人、来賓含め130人を超える方が一同に集まり、友好を深めるとともに「ふるさと新得」の発展のために様々なお話をいただきました。北海道内の自治体と連携している首都圏で「ふるさと会」に、これだけの人数が集まる総会は、人口が比較にならないほど多い旭川市のふるさと会だけのことでした。参加者の数と、様々な励ましの言葉に大変心強く思うと同時に、強い「絆」を感じたひとときでした。二点目は、翌日の27日にクラブメッド北海道の社長と会う機会がありました。その中で今後10年間の現施設の賃貸契約を終え、これからレストラン、部屋数を増やすなどの改修を進めるお話がありました。また、特に夏シーズンは一層力を入れていくので、お客様



へのサービスについて地元としても今まで以上の協力をお願いされ、今後どんな協力が可能か関係者の皆さんと相談を進めることにしました。

三点目は、3月1日に第53回新得高校卒業証書授与式に出席しました。父兄、在校生、来賓のほか特別支援学校の生徒が同席する中で挙行され、卒業生27人一人一人に卒業証書が手渡され、落ち着いた雰囲気の中、心温まる記憶に残る式典でした。特に、式典の中で3年間一日も欠かさず授業に出席した生徒3人に皆勤賞が授与されましたが、その強い意志に感激したところでした。なお、4月以降の新得高校には募集停止の影響で1年生はいません。2年生と3年生だけになり、平成31年3月に最後の卒業式を迎えますが、町民の皆さんには残された時間も、今まで同様の応援をお願いします。

四点目は、JR北海道の根室本線新得・富良野間の廃線問題への対応です。富良野市ほか3市1町で組織していた根室本線協議会に新得町が新たに加入し、占冠村も加入予定で鉄路維持のために連携を進めていくことにしました。

五点目は、人口減少対策として様々な取り組みを進めています。今後の対応のために平成28年1月から12月の人口動向を分析してみました。出生39人、死亡121人で82人の自然減、転入出は92人の増、その他の要因で37人の減、差し引き1年間で27人の減になっていました。転入出で転入者の増加が、今後も続くのか不明な部分ですが、明るい材料と捉え、今後も様々な政策を続けていきたいと思っています。

郷土の歴史を 新得町郷土研究会が ご紹介し ます

郷土の歴史を
新得町郷土研究会が
ご紹介し
ます

郷土の歴史を
新得町郷土研究会が
ご紹介し
ます

十勝の開拓は、馬の活躍を抜きに語ることはできません。新得町においては、明治32（1899）年にパンケシントク駅通所（新得駅通所・鎌倉与七取扱人）に官馬7頭が配置されたのが、馬が見られた最初とされています。一般の農家においては、明治35（1892）年に佐幌の岩瀬豊吉が最初に馬を導入しました。日清戦争で馬の果たす役割が重要視されるようになり、馬の改良、増産が国策として進められていきました。当時馬の競売を行う家畜市場は、十勝国産牛馬組合が主催して十勝管内7カ所で行われていました。新得でいつ頃から開かれるようになったのかはつきりしていませんが、大正4（1915）年には既に新得町字新得西1線50番地（現やすらぎ荘付近）で開催されていました。



家畜市場の様子

大正12（1923）年4月には国有種馬屈足種付所（同13年に新得種付所と改称）が新得家畜市場に隣接して設置されました。しかし、家畜市場は新得小学校に近い上、鉄道の踏切があり、時にはパンケシントク川の決壊があるため、屈足種付所と合併して大正15（1926）年に新得町米町123番地（現米町団地）に移転となりました。

新得家畜市場は芽室町以西を管轄しており、鉄道利用の便利さから春秋の競りの日には、全国各地から購買客が集まりました。このため、競りが行われる前後は旅館や料理店がにぎわっていました。その後、昭和23（1948）年に関係法令が廃止となり、種付所は解散し、家畜市場は農業協同組合に引き継がれましたが、馬産は年々衰退し、牛を中心とした家畜品評会や家畜祭へと変化していきました。

短歌

新得短歌会

ふるさとの鉄路と共に栄えよと
駅舎にわれらエールをおくる
菊池 康雄

どのやふな出会いがあらふ打たれつつ
繋がり思ふカルタの集い
中井由利子

人去りて憤怒の涙かはかぬに
あとををふがに義弟も逝くはや
宮脇 和子

産声をあげたばかりの清き朝
中吉引ければ一年ハッピー
岡田御狸裸

人生もおり返しつつ何もなくて
吾の足跡子らが繋げて
小野 恭子

亡き友を慕ふ心の歌を読み
しずかなりゆくわが胸なりき
高橋 幸子

一切の音の聞こえぬ身となれば
夢の中での会話楽しむ
石本 洋

打たざれば鐘も鳴るまい厄運を
嘆く因果我にあるらし
樋口かおり

俳句

新得俳句同好会

通夜帰り二月半ばの月白し
片桐 波月

恵方巻老いの二人に福来たる
渡辺アヤ子

齢の数ほどは食われぬ年の豆
月井 愁峰

ボケ防止着る事もなき毛糸かな
八木 育子

寒空を砕くが如くへりの音
高橋 民女

春雪を化粧につけて並木道
袴田ゆき男

豆撒きや一粒一粒法話あり
大崎かずお

背の丈の撥ね雪眩し日記帳
奇藤 青苔

腕白の秘密基地とや地虫出づ
中島 土方